

かみのまちいせき		
上ノ町遺跡		
所在地	茅ヶ崎市 西久保	
時代	古代 (奈良・平安時代) 中世 近世	

調査概要

上ノ町遺跡はさがみ縦貫道の建設に伴う発掘調査であり、新湘南バイパスとの接続地点にあたる。過去にも大きな調査として、昭和56年～58年の新湘南国道埋蔵文化財調査会の調査、平成9年～13年にかながわ考古学財団が行った調査、平成3年～9年等に茅ヶ崎市教育委員会が行った調査がある。今回の地点は側道等の移転に伴い調査可能となったところである。

調査の途中であるが、現在発見されているのは、近世では土坑墓（どこうぼ）、畝状遺構（うねじょういこう）、溝状遺構（みぞじょういこう）、ピット、中世では土坑、溝状遺構、井戸（いど）、ピット、窪地状遺構（くぼちじょういこう）などである。中世は特に遺構（いこう）が密集（みっしゅう）しており、ほとんどが戦国期（せんごくき）のもので、溝に区画（くかく）された掘立柱建物群（ほったてばしらたてもものぐん）が主体をしめる。本調査区の北側・南側で確認されて既に報告済みの中世集落（ちゅうせいしゅう



▲中世(戦国時代) 井戸



▲近世 畝状遺構

らく)の続きであろう。中世集落の南には日蓮宗(にちれんしゅう)妙運寺(みょううんじ)があるが、この寺は戦国時代、西久保周辺を治めていたという近藤右衛門尉経秀(こんどううえもんいつねひで)の母が日蓮宗に帰依(きえ)し妙運尼(みょううんに)を名乗り、自宅または自宅近くに寺を構えたことから始まるという。この集落が近藤一族と関係しているとは短絡的に言えないが、可能性としては考慮すべきである。